

令和7年度試験問題
前 期 日 程
学校教育教員養成課程
伝統文化教育専攻

| 専 修 名 | 科 目 等 | ペ ー ジ |
|----------|-------|-------------|
| 文化遺産教育専修 | 小 論 文 | P. 1 ~ P. 5 |

注 意

1. 問題冊子及び解答用紙は指示のあるまで開かないこと。
2. すべての解答用紙の※印のついた箇所に受験番号を記入すること。(合計点欄に記入してはいけない。)
3. ページ数に間違いがないかよく調べること。
4. I, II-A (文化財科学), II-B (造形表現)のうち,
Iは共通問題である。全員必ず解答すること。
II-A (文化財科学), II-B (造形表現)については、いずれか一問を選んで解答すること。
5. 下書用紙を利用することは差しかえないが、答えはすべて解答用紙に記入すること。
6. 試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰ること。

共通問題

I 写真A・写真B・写真Cには、6～7世紀の日本の軒丸瓦と韓国（百済）の軒丸瓦が混在している。以下の問いに答えなさい。

〔配点225点〕

問1 写真A・写真B・写真Cのうち、どれが日本の軒丸瓦でどれが韓国（百済）の軒丸瓦か、以下の①～⑥の選択肢から正しい答えを選び、解答用紙にその番号を書きなさい。

〔配点25点〕

- ① 写真Aが日本の軒丸瓦，写真B・写真Cが韓国（百済）の軒丸瓦である。
- ② 写真A・写真Bが日本の軒丸瓦，写真Cが韓国（百済）の軒丸瓦である。
- ③ 写真A・写真Cが日本の軒丸瓦，写真Bが韓国（百済）の軒丸瓦である。
- ④ 写真Bが日本の軒丸瓦，写真A・写真Cが韓国（百済）の軒丸瓦である。
- ⑤ 写真B・写真Cが日本の軒丸瓦，写真Aが韓国（百済）の軒丸瓦である。
- ⑥ 写真Cが日本の軒丸瓦，写真A・写真Bが韓国（百済）の軒丸瓦である。

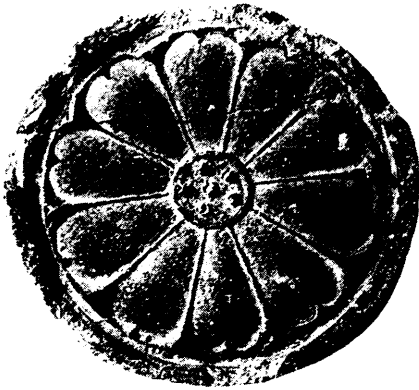
問2 写真A・写真B・写真Cの軒丸瓦の形態上の類似と相違をもとに、『日本書紀』の記事を参考にして、6～7世紀の日本への海外からの文化伝播の様相について、400字以内でまとめなさい。技術とそれを伝えた人々に関する観点を必ず盛り込むこと。

〔配点200点〕

(参考史料)

「この年(中略)百濟国は(中略)寺院建築工太良未太・文賈古子・鑪盤
博士の将徳白味淳・瓦博士の麻奈文奴・陽貴文・悛貴文・昔麻帝弥・画工白加
をたてまつった。蘇我馬子宿禰は(中略)はじめて法興寺を造った。」(『日本
書紀』卷第二十一 崇峻天皇元年(西暦588)条。宇治谷孟訳『全現代語訳
日本書紀(下)』より引用。)

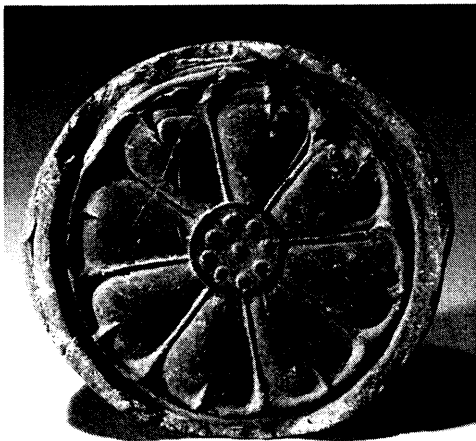
写真A



写真C



写真B



選択問題（文化財科学）

Ⅱ－A

石は古くから人類が道具の材料として利用してきた素材である。石で作られた道具や器は石器と呼ばれる。石器を主に使用していた時代を石器時代と呼び、旧石器時代と新石器時代に分けることができる。旧石器時代には主に石を打ち砕いてつくられた石器（打製石器）が利用され、新石器時代になると他の石などで表面を滑らかに研磨加工した石器（磨製石器）が広く用いられるようになる。日本では、打製石器の材料として黒曜石やサヌカイトなどの石材が好んで用いられてきた。これは、これらの石材が打製石器の材料として優れた性質を持っていたからである。また、黒曜石の代表的産地として北海道や長野県、サヌカイトの代表的産地として香川県が知られているが、これらの産地でとられた石材から作られた石器は日本各地から出土する。打製石器の材料として黒曜石やサヌカイトが有している優れた性質とはどのようなものだろうか。さらに、石材の産地と石器の出土地の関係は、どのような事実を明らかにするのだろうか。考古学および自然科学の視点を加えながら、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

〔配点225点〕

* このページは白紙です。

選択問題（造形表現）

Ⅱ－B

与えられたモチーフ（版画用ばれん）を手で持ち、その手とモチーフを実物大で解答用紙に鉛筆写生しなさい。

〔配点225点〕